

# **島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想 推進行動計画**

平成 29 年 4 月

(平成 29 年 11 月 一部修正)

島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会

## 目次

<b>第1章 事業の概要</b> .....	1
1. 計画の目的 .....	1
2. コンセプト .....	1
3. 島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想のテーマ .....	1
4. ジオパーク活動の7つの柱と人づくり・魅力づくり .....	2
5. 組織体制 .....	2
<b>第2章 ジオパーク活動の7つの柱</b> .....	6
1. 調査・研究と保全 .....	6
2. 教育活動 .....	9
3. 普及活動 .....	12
4. 防災対策 .....	17
5. 安全対策 .....	18
6. ジオガイドの養成 .....	20
7. 産業振興 .....	23
<b>第3章 ジオパーク活動をベースにした人づくり・まちづくり</b> .....	28

## 第1章 事業の概要

### 1. 計画の目的

島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想（以下「本構想」という。）では、地球環境の大切さを学び、守り育てながら未来に引き継いでいくために、地質・地形とともにこの地に根付いている歴史文化も交えた視点でアプローチし、まずはジオパークの価値を身近に感じてもらふこと、そして、持続的かつ地域を挙げた活動を展開していくこととしている。

その具体的な推進を図るため、平成29年度を始期とする5年間の活動指針として「島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想推進行動計画」を策定するものである。

### 2. コンセプト

地球環境の大切さを学び、守り育てながら未来に引き継いでいくために、「大地の成り立ちが歴史文化の形成に深く関わっていること」を分かりやすく伝えることで、「ジオパーク活動の輪」を広げていく。

### 3. 島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想のテーマ

#### 出雲国風土記の自然と歴史に会う大地

##### ■ 大地の成り立ちと古代出雲文化

島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想のエリアは、日本海を形成した地質時代の「大規模な地殻変動」が起こった地域である。

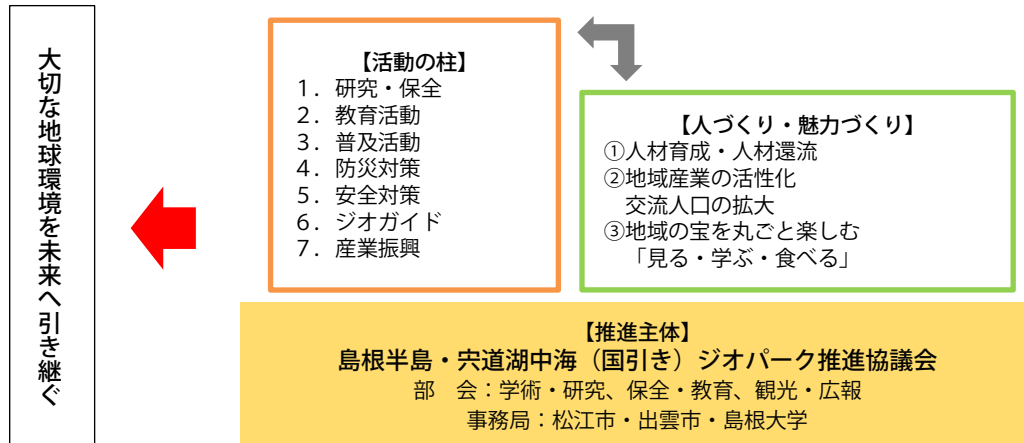
そのダイナミックな大地の営みの中で形成された「島根半島が天然の防壁」となり、環日本海交流の「海運拠点となる潟湖」や「肥沃な平野」を形作るとともに、「豊富な鉱物資源」にも恵まれたことで「古代出雲文化」が育まれてきた。

##### ■ 平成の出雲国風土記

奈良時代に編纂され、地方の地勢や文化風土を書き綴った全国の風土記のうち、唯一の完本と言われる「出雲国風土記」の国引き神話には、八束水臣津野命が、新羅（朝鮮半島）、珠洲（能登半島）や日本海の沖合から国を引き寄せ、島根半島を創り上げたと記された神話がある。このような歴史のある場所だからこそ、ジオパークの魅力を「平成の出雲国風土記」という形にして、次代へ、そして世界へ伝えていく。

#### 4. ジオパーク活動の7つの柱と人づくり・魅力づくり

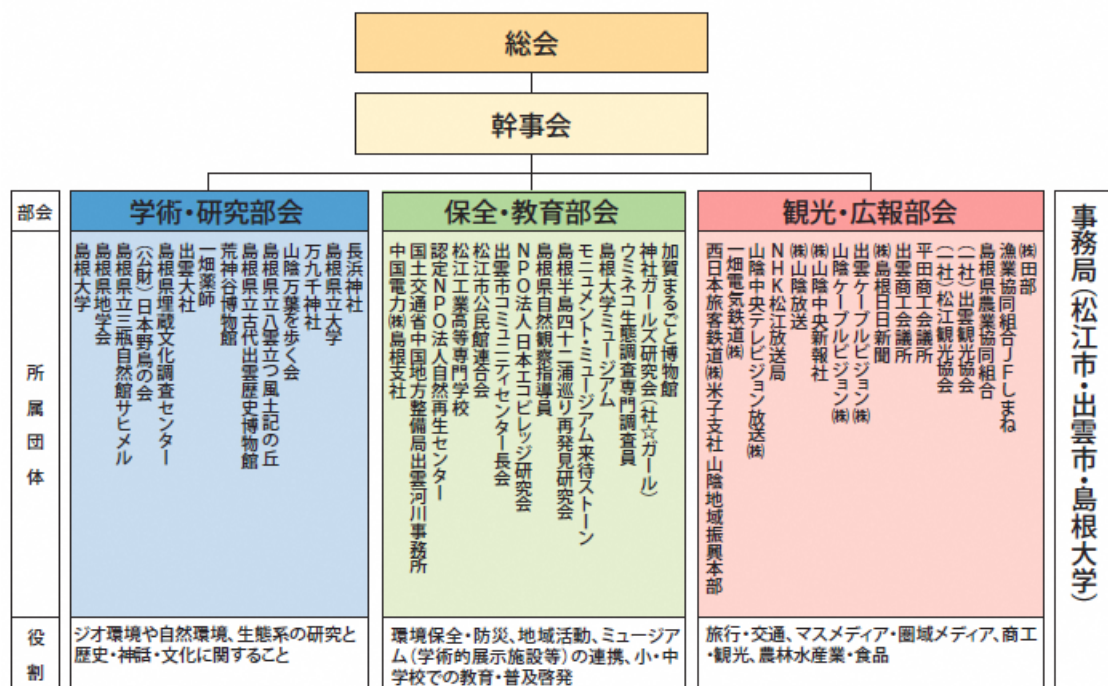
島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想エリアの魅力あふれる大地を保全・活用するために、地域を挙げた推進体制を構築し、持続的で幅広い活動を展開する。



#### 5. 組織体制

行政、教育機関、観光協会、商工会議所及び地域代表などの代表者により、ジオパーク活動に具体的に取り組む部会と、意思決定機関である総会を構成し、それぞれ、部会長、会長等の役員を選出する。また、部会での活動状況や意見等を横断的に調整し、総会へ上程する議案作成などのため、行政、島根大学及び各部会の代表者により構成する幹事会を設置する。

【体制図】



【総会体制】

※平成 29 年 3 月現在

	部会	選出分野	所 属	委員氏名
会長 副会長 副会長 副会長	会長代行		松江市長 出雲市長 松江商工会議所 会頭 国立大学法人島根大学 特任教授	松浦 正敬 長岡 秀人 古瀬 誠 小林 祥泰
会員	学術・研究 部会	ジオ環境研究 分野  歴史・神話・ 文化分野	国立大学法人島根大学 教授（島根大学くまびきジオパークプロジェクトセンター 代表） 島根県地学会 会長 島根県立三瓶自然館サヒメル 公益財団法人 日本野鳥の会 理事長 島根県埋蔵文化財調査センター 嘱託員  出雲大社 権宮司 一畑薬師 管長 荒神谷博物館 館長 島根県立古代出雲歴史博物館 館長 島根県立八雲立つ風土記の丘 所長 山陰万葉を歩く会 会長 万九千神社 宮司 公立大学法人島根県立大学 教授 長浜神社 宮司	野村 律夫 永井 泰 井上 雅仁 佐藤 仁志 内田 律雄  千家 和比古 飯塚 大幸 藤岡 大拙 栗原 昌子 松本 岩雄 川島 芙美子 錦田 剛志 小泉 凡 秦 和憲
	観光・広報 部会	旅行・交通 分野 マスメディア・ 圏域メディア 分野  商工観光分野  農林水産業・ 食品関連分野	西日本旅客鉄道株式会社米子支社山陰地域振興本部 一畑電気鉄道株式会社 代表取締役会長  山陰中央テレビジョン放送株式会社 代表取締役社長 NHK松江放送局 局長 株式会社山陰放送 代表取締役社長 株式会社山陰中央新報社 代表取締役社長 山陰ケーブルビジョン株式会社 代表取締役社長 出雲ケーブルビジョン株式会社 代表取締役 株式会社島根日日新聞 専務  出雲商工会議所 会頭 平田商工会議所 会頭 一般社団法人松江観光協会 常務理事 一般社団法人出雲観光協会 会長  島根県農業協同組合 代表理事 組合長 漁業協同組合JFしまね 代表理事 会長 株式会社田部 代表取締役社長	和田 昇司 大谷 厚郎  田部 長右衛門 木村 靖 坂口 吉平 堀尾 倫男 石原 俊太郎 今岡 余一良 菊地 恵介  三吉 庸善 大谷 厚郎 内田 敏夫 今岡 一朗  竹下 正幸 岸 宏 田部 長右衛門
	保全・教育 部会	環境保全・防災 分野  地域活動分野  ミュージアム 連携分野	中国電力株式会社 島根支社 支社長 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 所長 認定NPO法人自然再生センター 理事長 松江工業高等専門学校 副校長  松江市 公民館連合会 代表 出雲市 コミュニティセンター長会 NPO法人日本エコビレッジ研究会 理事長 島根県自然観察指導員 島根半島四十二浦巡り再発見研究会 事務局長 モニュメント・ミュージアム来待ストーン 学芸員 ウミネコ生態調査専門調査員 神社ガールズ研究会 代表 加賀まるごと博物館  国立大学法人島根大学 教授（島根大学ミュージアム 館長） 国立大学法人島根大学 講師	妹尾 雅雄 柴田 亮 徳岡 隆夫 浅田 純作  小川 英二 高橋 一夫 召古 裕士 門脇 和也 木幡 育夫 古川 寛子 濱田 義治 河野 美知 中野 雅行  入月 俊明 辻本 彰
事務局長 事務局次長	運営顧問  事務企画管理		松江市 副市長 出雲市 副市長  松江市 政策部 部長 出雲市 総合政策部 部長 ※協議会事務局：松江市地域振興課・出雲市政策企画課	松海 広明 伊藤 功 星野 芳伸 石田 武
顧問			国立大学法人島根大学 学長 映画監督 古代史家、元島根県古代文化センター 客員研究員	服部 泰直 錦織 良成 関 和彦
オブザーバー			環境省松江事務所 自然保護官	瀬川 涼

(敬称略)

【専門部会体制】

※平成 29 年 3 月現在

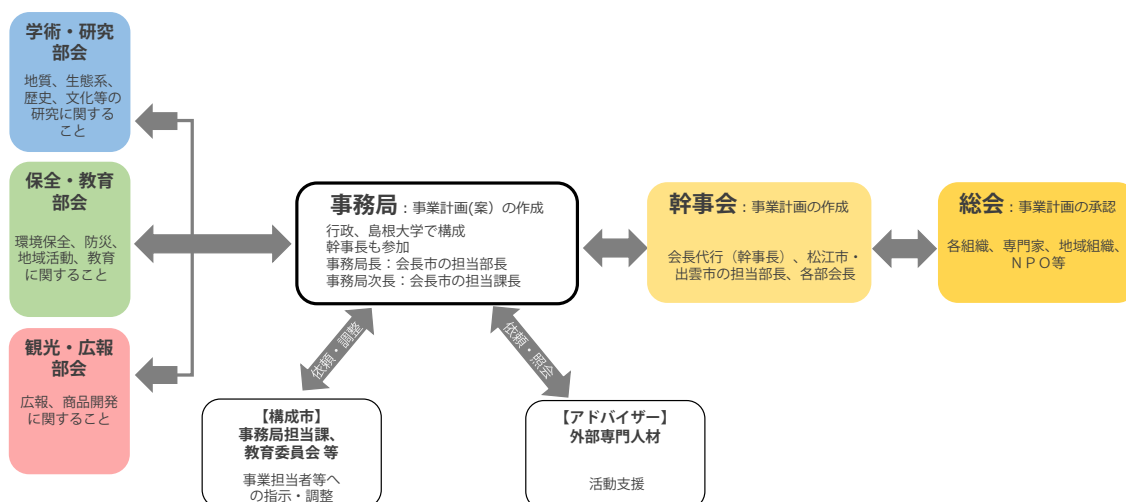
部会	選出分野	所 属	運営委員氏名
学術・研究部会	ジオ環境研究分野	国立大学法人島根大学 教授 (島根大学くびきジオパークプロジェクトセンター 代表) 島根県地学会 副会長 島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課 公益財団法人 日本野鳥の会 理事長 島根県埋蔵文化財調査センター 嘱託員	野村 律夫 高尾 彬 井上 雅仁 佐藤 仁志 内田 律雄
	歴史・神話・文化分野	出雲大社 総務部長 一畑薬師 管長 荒神谷博物館 副館長 島根県立古代出雲歴史博物館 学芸部長 山陰万葉を歩く会 会長 万九千神社 宮司 公立大学法人島根県立大学 教授 長浜神社 宮司	川谷 誠一 飯塚 大幸 平野 芳英 的野 克之 川島 芙美子 錦田 剛志 小泉 凡 秦 和憲
保全・教育部会	環境保全・防災分野	中国電力株式会社 島根支社 副支社長 中国電力株式会社 島根支社 広報グループマネージャー 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 副所長 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 総務課長 認定NPO法人自然再生センター 理事長 松江工業高等専門学校 副校長	栢野 和則 金崎 洋利 西尾 正博 石飛 茂継 徳岡 隆夫 浅田 純作
	地域活動分野	松江市民館連合会 代表 出雲市コミュニティセンター会長 センター長 NPO法人日本エコビレッジ研究会 理事長 島根県自然観察指導員 島根半島四十二浦巡り再発見研究会 事務局長 モニュメント・ミュージアム来待ストーン 学芸員 ウミネコ生態調査専門調査員 神社ガールズ研究会 代表 加賀まるごと博物館 代表	小川 英二 高橋 一夫 召古 裕士 門脇 和也 木幡 育夫 古川 寛子 濱田 義治 河野 美知 中野 雅行
	ミュージアム連携分野	島根大学ミュージアム ミュージアム館長 島根大学ミュージアム ミュージアム副館長 島根大学教育学部自然環境教育講座(地学) 講師	入月 俊明 会下 和宏 辻本 彰
観光・広報部会	旅行・交通分野	西日本旅客鉄道株式会社米子支社山陰地域振興本部 副本部長 西日本旅客鉄道株式会社米子支社山陰地域振興本部 課長 一畑電気鉄道株式会社 経営推進部長	和田 昇司 木内 吾平 安井 和雄
	マスメディア・圏域メディア分野	山陰中央テレビジョン放送株式会社 報道部副部長 NHK松江放送局 局長 株式会社山陰放送 松江市社長 株式会社山陰中央新報社 地域メディア局担当局長兼地域振興部長 山陰ケーブルビジョン株式会社 番組製作課長 出雲ケーブルビジョン株式会社 取締役業務部長 株式会社島根日日新聞 専務	山根 収 木村 靖 山根 貴司 藤井 満弘 山田 勝美 安里 隆司 菊地 恵介
	商工観光分野	松江商工会議所 専務理事 出雲商工会議所 専務理事 平田商工会議所 事務局長 一般社団法人松江観光協会 事務局長 一般社団法人松江観光協会美保関支部 事務局長 一般社団法人出雲観光協会 事務局長	松浦 俊彦 糸原 直彦 坂本 倫光 北垣 茂巳 住吉 裕 小野 篤彦
	農林水産業・食品関連分野	島根県農業協同組合 代表理事専務 株式会社田部 取締役 経営管理副本部長 株式会社田部 経営管理本部総合企画グループリーダー	高木 賢一 浅田 伸二 井上 裕司

## 【幹事会体制】

※平成 29 年 4 月現在

役職	所 属	役 職	運営委員氏名
幹事長	国立大学法人島根大学	特任教授	小林 祥泰
幹事	島根大学ミュージアム（国立大学法人島根大学）	ミュージアム館長	入月 俊明
	島根大学教育学部自然環境教育講座（地学）	講師	辻本 彰
	一般社団法人松江観光協会美保関支部	事務局長	住吉 裕
	松江市政策部	部長	星野 芳伸
	出雲市総合政策部	部長	石田 武
事務局	松江市国引きジオパーク推進室	室長	佐目 元昭
		専門員	野村 律夫
		事務局員	三代 隆司
	出雲市政策企画課	事務局員	森江 和文
		係長	荒木 真一

## 【意思決定・運営の流れ】



## 第2章 ジオパーク活動の7つの柱

### 1. 調査・研究と保全

地質・地形サイトや地質・地形以外のサイト（以下、「文化サイト」という。）の学術的価値をより多くの人々が共有できるように、調査研究を充実、促進させる。合わせて、地域住民と一体となって保全活動を行う。

#### 1) 地質・地形サイトの調査・研究とジオストーリーの構築

##### (1) 趣旨

本構想では、地質・地形学的にみて貴重な地質・地形サイトを含む自然と古代出雲の歴史・文化が融合する空間を、ジオサイトとして捉えたジオストーリーの構築を目指す。本構想の魅力は、現在の我々が地質学的時間と古代史の歴史的時間を、時を超えて共有できるジオストーリーを体験できることである。

##### (2) 現状と課題

現在、本構想では3エリアと、それぞれのエリアにはサブエリアを設けている。エリアとサブエリアは、それぞれ地質・地形学的な背景を異にするものである。エリアとサブエリアは歴史文化的視点と共通していることが多く、自然と歴史文化の興味深い対応関係がある。そこで、現在の67地質・地形サイトと53文化サイトを学術的に整理し、充実したジオストーリーへと発展させる。

##### (3) 今後の計画手順

- ・未設定の地質・地形サイトと文化サイトを年次的に調査・研究し、サイトを追加、充実させる。また、既定サイトとのジオストーリーの再構築を図り、ジオパーク利用者にとっていっそう魅力的なサイトの選定を行う。
- ・地質・地形サイトや文化サイトの評価にあたっては、専門的な学術研究による裏付けを必要とする。そのための、大学・博物館等の研究者や地域史研究者への支援が必要となる。
- ・地質・地形サイトの選定にあたっては、世界ジオパークネットワークの方針に従い、また、世界遺産の保全方法を参照する。すなわち、コアゾーン（厳格に保護保全されるサイト）とバッファゾーン（緩衝的なサイト）を学術的に明確にする。
- ・地域の人々がジオパーク活動を理解し、自らが地域をガイドできるように、専門家による講話及び地域シンポジウム等を地域で実施する。
- ・主要な地質・地形サイトについては、説明板を設置し、年次的に設置を進める。また、すでに国や県によって設置されている場合は、ジオパークと統一化を図る。
- ・ジオストーリーに基づく成果や情報を、新聞や月刊誌等マスコミを通じて定期的に掲載する。



- ・研究者自身の研究活動が円滑に進めることができるように、外部資金の獲得にも努める。

#### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
未設定サイトの調査・研究	●														→
サイト再評価	●														→
地域シンポジウム等の開催			●→			●→			●→			●→			●→
説明板設置			●												→
マスコミ利用	●														→
外部資金の獲得	●														→

※地域シンポジウムは、年次毎に地域の公民館ブロック単位で行う。

## 2) 保全整備

### (1) 趣旨

本構想エリアは、出雲国風土記に記され、現在にも残っている矢田の渡しや大根島、島根半島の四十二浦のように、古代から続く人々の生活が現在まで残る全国でも珍しい場所である。このような場所を活用するジオパークとして、地質・地形サイトと文化サイトを保全し、持続的な維持管理を図る。

### (2) 現状と課題

地域により、過疎化や高齢化が急速に進行している。また、地域の人口減少は公共施設の利用や風習の継続性を困難にしている。島根半島海岸域では海岸漂着物による環境悪化が著しい。ジオパークは、地域の抱える多くの課題に、正面から対峙し、地域の活性化へ向けた対策を行う。

### (3) 今後の計画手順

- ・地域住民と共に海岸漂着物の定期的な回収を行い、観光客が地質・地形サイトを訪れた時に心地よい景観を提供できるように努める。
- ・海岸漂着物は、地域教育や学校教育における取組も必要となり、地域の公民館や小中学校と一緒にこの課題を考える。また、2017年度は、韓国の中高生が島根県を訪問することになっており、漂着物問題を通じて本構想の活動を紹介し、両国の明るい未来作りに貢献するように努める。
- ・観光客へのサービス充実のため、アクセス道路の整備や既存の施設の活用などを、地域住民の協力を得て、利便性と安全性に配慮した活動を行う。

#### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
地域住民との連携		●	→												→
学校教育との連携		●	→												→
韓日文化フォーラム		●→			●→			●→			●→			●→	
サイト保全・保護への協力		●	→												→

※韓日文化フォーラムは、2017年度を機会に毎年行えるよう島根県に働きかける。

### 3) 奨学金制度の創設

#### (1) 趣旨

本構想における地質・地形サイトの学術的特徴は、島根大学の「くにびきジオパークプロジェクトセンター」によって明らかにされてきた。主要な地質・地形サイトや文化サイトは、すでに列挙されているが、地質・地形サイトと文化サイトのシームレスな連携への取組や地質・地形サイトの学術的解明など、今度とも充実させなければならない課題も多い。そのため、奨学金制度を設けて、研究者個人やその共同研究グループ、また地域団体によるサブカルチャー発見活動などの活動を支援する。

#### (2) 現状と課題

自然現象の解釈は固定したものではなく、常に改変され進展していく。地質・地形サイトや文化サイトの内容も、常に学術研究の成果を積極的に取り入れ、生き生きとした情報を伝える必要がある。広く熱意のある個人、グループがこの制度を利用しやすい環境を整備する。

#### (3) 今後の計画手順

- ・本構想エリア内の学術活動を支援するために、全国に向けて研究者を募集する。そのなかで問題設定とその解決へ向けた研究手法が明確な課題を選ぶ。選出された課題は、1年間を研究期間とし、3年以内に学術誌で成果を公表する。また、その成果を地域へ還元するため、毎年行う成果発表会において発表する。
- ・研究対象は、地質・地形サイトと文化サイトに関わるものを取りあげる。または、推進協議会でテーマを絞って募集することもある。

#### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
奨学金制度の運用				●————→											
成果発表会							●————→			●————→			●————→		

※研究者は、それぞれの所属学会等で発表すると共に、年に一度の発表会（ジオパークシンポジウム等）で成果の地域還元を行う。

## 2. 教育活動

ジオパーク活動は地質・地形遺産を保全・活用しながら持続可能な地域社会を実現する取り組みであり、その仕組みを構築するためには、地域住民や地域の子どもが地元へ愛着と誇りを持つことが重要である。地域住民や地域の子どもに、地元の魅力を再発見してもらう機会をつくるために、生涯教育・学校教育の場においてジオパーク活動を展開していく。

### 1) 小中高におけるジオパークを活用したふるさと学習

#### (1) 趣旨

ジオパークは、ジオ（地球）の成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所である。大地の成り立ちは人の暮らしや文化に直結しており、これらを学際的に結び付けることで地域に誇りを持ち、地域の素晴らしさを認識できる子どもを育てることができる。そのために、ジオパークを活用した教育が持続的に行われる仕組みを構築する必要がある。

#### (2) 現状と課題

小学校 5 年生の「流水の働き」および小学校 6 年生の「土地のつくりと変化」の単元、中学校 1 年生の「大地の成り立ちと変化」においては、地質・地形サイトを活用した教育が行われている。また、松江市内の県立高校においては、校外学習の中で地質をベースにした地域の歴史・文化の発展を考え、自然環境保護や活用方法を学習している。しかし、本構想エリア内の教育関係者にジオパークが浸透しておらず、教育に有効な地質・地形サイトおよびその活用法について整理する必要がある。

#### (3) 今後の計画手順

- ・教育関係者を対象としたジオツアーを開催し、教育に有効な地質・地形サイトおよびその活用法について整理・検討する。多様な自然を対象とした野外学習では、専門的知識の不足や地域素材の活用法に対する困難さが野外学習実施教員の問題として生じているため、教育委員会との連携のもと、地質・地形サイトを活用した学習補助資料（副読本）

の作成を行う。

- ・本構想エリア内の子どもたちが地域・学年を超えた学び合いができるようにするため、地域の子どもたちが調べた地域学習の成果を発表する場を設ける（ジオパーク発表会の実施）。

#### （４）目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
教員向けジオツアーの開催	●	→	→	→	→	→									
副読本の作成	●	→	→	→	→	→									
ジオパーク発表会									●→			●→			●→
小中高校生向けジオツアーの開催	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

※教育委員会の方針にジオパーク学習を取り入れる。2019年度以降年1回、継続的にジオパーク発表会が開催できるようにする。

## 2) 大学でのジオパーク学

### （１）趣旨

島根大学では、各学部の学科又は課程の専攻に係る分野以外の特定分野について、授業科目を体系的に編成することにより、学生の多様な興味関心に即したプログラムとして「特別副専攻プログラム」を展開している。島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンターでは、2013年度よりジオパークを活用した教育プログラムである「ジオパーク学特別副専攻プログラム」を開始しており、ジオパークを活用して地域の魅力を語り伝えることのできる人材の育成を行っている。ジオパーク学の学際的かつ体系的な大学教育プログラムであるという点で、全国でもユニークなものである。

### （２）現状と課題

「ジオパーク学特別副専攻プログラム」では、「ジオパーク学入門」「ジオパーク学各論」「ジオパーク学演習」の3つのコア科目を開講している。初年次の「ジオパーク学入門」の履修登録者は全学で350人を超える人気科目となっているが、2年次の「ジオパーク学演習」の履修登録者は16名（2016年度）であった。「ジオパーク学演習」は休日を使った野外実習が多く、特別に意識が高い学生が残っていると考えられる。ジオパークを活用して地域の魅力を語り伝えることのできる人材を育成するためには、さらに広い層の学生に「ジオパーク学演習」に参加してもらう必要がある。

### （３）今後の計画手順

- ・「ジオパーク学特別副専攻プログラム」を継続して実施する。「ジオパーク学演習」への

参加学生を増やすため、学生に対する継続的な広報活動とともに、活動の幅を広げて学生が履修しやすくする。

- ・本プログラムの学生が中心となった、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想学生倶楽部（仮称）」を組織し、学生の目線を活かしたジオパーク活動が持続的に行われる仕組みを構築する。島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会が主催する地域でのイベントに学生を企画者として参加させ、学生の視点で本構想の可能性を追求することにより、地域の新たな魅力発見につなげる。学生目線でジオツアーやパンフレットを計画し、モニターツアーが実施できるようにする。

#### （４）目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ジオパーク学プログラムの実施	●————→														
ジオパーク学生組織の構築				●————→											
ジオパーク学生組織の活動							●————→								

### 3. 普及活動

#### 1) 住民理解の促進

##### (1) 趣旨

ジオパーク活動は地域住民が一体となったボトムアップとして進められることが望ましい。そこで、普及活動を通じて本構想の魅力を地域住民に知ってもらい、地域一体となって推進していく体制づくりを図るものである。

##### (2) 現状と課題

推進協議会の発足以前から、島根大学では「くにびきジオパーク・プロジェクトセンター」を立上げ、地質・地形サイト探訪会やシンポジウム、新聞連載を通じて本構想地域のジオパークとしての魅力を地域住民に発信してきた。推進協議会の設立後は、本構想地域で開催された「隠岐ユネスコ世界ジオパークフェスタ」や、島根大学を中心に自治体や事業者・団体、学生との連携を図る「しまね大交流会（オールしまね COC+事業）」へのブース出展、本構想の取り組みを広く知っていただくためのシンポジウムの開催や公民館活動への参加、地元プロバスケットボールチーム（島根スサノオマジック）のスポンサー試合で PR したほか、市報などで本構想の意義等を掲載し、ジオパークの魅力を発信してきた。また、平成 28 年度は、地域主体の活動を促進するため、9 団体へ支援を行い講演会、パンフレット・地図作成、案内看板、ガイド養成などに取り組んだ。一方、本構想は松江市・出雲市の広域にわたるため、ジオパーク活動について浸透しきれていないエリアがある。

##### (3) 今後の計画手順

- ・地域ごとに前講座を開催し、各地域の魅力を地域の皆さんと再発見する機会を設けていく。
- ・公民館でのイベントなどに積極的にブース出展することで、地域に密着した普及活動を行う。本構想地域の魅力を紹介するためのポスターやチラシを作成しており、これらを公共施設、公民館を始め駅や地元商店などにも設置して、本構想の理解を促す。
- ・自治会、公民館単位での前講座を開催する。地域住民向けジオツアーを定期的に開催し、地域住民主導のジオツアーのコースを開発する。

#### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
出前講座の開催	●—————▶														
公民館イベントへの参加	●—————▶														
地域住民向けジオツアーの開催	●—————▶														

## 2) 解説板の設置

### (1) 趣旨

ジオパーク活動を通じて、これまで眠っていた地域資源（地質・地形サイト）に光を当て、新たな地域資源として、観光客に PR するだけに留まらず、地域の小中学校などの事業でも活用し、郷土愛の醸成に資するなどの活用が可能になるよう計画的に設置していく。

また、環境省が、国内の 32 カ所の自然公園から、国際水準のナショナルパーク化を図る自然公園を 8 カ所選定し、整備を進めることとしているが、本構想エリアとほぼ区域を同じくする大山隠岐国立公園が選定されており、国を含めた関係機関と設置場所やデザイン、財源などを調整しながら設置していく。

### (2) 現状と課題

地質・地形サイトに関連する場所に、観光看板や案内板が設置されていないところが多い。また、既に設置されている場合、国や県などによって整備されているが、ジオパークに関連する解説は極めて少ない。

### (3) 今後の計画手順

- ・既存の法令や景観に十分配慮した上で、地域住民や観光客、ジオツアー参加者などの訪問者にとって認識しやすく、特にジオパークを移動しながらその地質学的背景と神話のつながりを学べるよう、統一性とストーリー性を考慮して整備を進めていく。併せて、写真や図を多用しつつ、地形や地質、植生などの記述に加え、神話や歴史、文化についての解説も加える。
- ・スマートフォン等で読み込める QR コードを付加することでより詳細な WEB サイトへ誘導し、来訪者への丁寧な情報提供を行うとともに、訪問者数等を把握するデータとしても活用していく。
- ・既存の観光看板や案内板の更新時にジオパークに関連する情報を加えてもらえるよう働きかける。

(4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
解説板等設置計画※1	●	→													
解説板設置		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
誘導案内板設置※2		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

※1 解説看板：2017年度に2件、2018年に10件、2019年以降毎年4件程度（更新含む）

※2 誘導案内：2017年度に2件、2018年に4件、2019年以降毎年2件程度（更新含む）

3) ガイドマップ・ガイドブックの製作

(1) 趣旨

本構想の魅力や各地質・地形サイトを紹介するとともに、「国引き神話」や各地に根付いた信仰、食文化などの風土と大地の形成との繋がりを紹介し、訪れて満足のできる、分かりやすい内容のガイドマップ等を作成していく。

(2) 現状と課題

地域内の観光地には多言語化されたガイドマップやパンフレット等が数多くあり、ジオパークに関連する記述も多く見受けられる。これら既存のパンフレット等と連携・情報共有を進め、より多くの人々に手に取ってもらうことで、ジオパーク活動への理解を促進していく必要がある。

(3) 今後の計画手順

- ・ガイドマップ・ガイドブックの製作する際は、エリア全体のものと地質地形の特徴を反映させたサブエリアといった単位でまとめ、総合ガイドと詳細ガイドといった目的別に利用できるようにする。また、店舗情報なども適宜加えていく。
- ・環境教育等の学習にも使えるよう、小学校高学年程度が読んで理解できるものも作成する。

(4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ガイドブック・ガイドマップ作成	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
エリア全体	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
エリア別				●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
サブエリア							●	→	→	→	→	→	→	→	→



#### 4) マスコミによる積極的な発信

##### (1) 趣旨

推進協議会の構成員でもある地元紙や地元放送局の協力を得ながら、エリア内外へ情報発信し、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想」という名称を広め、交流人口の拡大を図るとともに、ジオパーク活動を広報していく。

##### (2) 現状と課題

ジオパークの名称が地域名でないため、本構想エリア以外の方には、位置が分からない。また、本構想の独自性を明確化し、地質的な特徴はもちろん、大地の成り立ちと「古事記」や「出雲国風土記」に記述されている神話などとの関連性を持たせることで、個性を出していく必要がある。

##### (3) 今後の計画手順

地元紙や地元放送局などのマスメディアの協力を得ながら広報活動を進め、県内外へのプロモーションを観光部局等と連携して取り組む。松江市、出雲市には松江城、出雲大社といった国宝指定されている建造物があるだけでなく、出雲大社や八重垣神社など縁結びの神様として全国的にも有名であり、両市の観光入込客数は、2,255.7 万人（平成 27 年島根県観光動態調査結果より）を数え、東京キー局の旅番組や大手旅行雑誌に頻繁に取り上げられていることから、こうした取材の折りに本構想の活動を盛り込み全国的な PR を進める。

##### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
エリア内向け PR※1	●—————→														
エリア外向け PR※2	●—————→														
モニターツアー開催							●								→

※1 エリア内向け PR：毎年 5 回はマスコミに取り上げてもらう

※2 エリア外向け PR：毎年 2 回はマスコミに取り上げてもらう

## 5) ビジターセンターの整備

### (1) 趣旨

本構想エリアは広域にわたることから、観光客等への情報提供やジオガイドの紹介などの機能を持つビジターセンターを複数整備する。また、整備にあたっては、主要な地質・地形サイトに近い場所でアクセス面や人的配置、利用者の利便性も重視しつつ、整備していく。

### (2) 現状と課題

本構想の中心となる島根半島は、公共交通の路線が少なく、コミュニティバスなどにより、生活路線が確保されている。

松江市の候補施設（人と情報・文化の交流館：マリンプラザしまね）については、加賀の潜戸への遊覧船発着場であるが、路線バスからコミュニティバスへの乗り換えが必要であり、路線延長など、利用者の交通利便性の確保が課題である。

出雲市の候補施設（日御碕観光案内所）は、日御碕及び日御碕灯台の大駐車場に設置されている。併せて、出雲科学館と松江国際観光案内所については今後の整備が課題である。

### (3) 今後の計画手順

ビジターセンターの利用形態を検討し、利用者目線で施設を整備する。また、候補施設は、国立公園内に立地しており、環境省が進める満喫プログラムとの調整を図りながら、整備していく。また、これらの整備については、国、県と一体となって進めている大山隠岐国立公園のナショナルパーク化の取り組みと緊密に連携して推進していく。

### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ビジターセンター整備計画策定	●	→													
ビジターセンター整備		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

※2017年度内に拠点施設の整備を開始する。

## 4. 防災対策

### (1) 趣旨

本構想エリアは地震や台風などの大規模な災害が比較的少ない地域であるものの、出雲平野、宍道湖低地帯を中心に、斐伊川の洪水によって水害が頻繁に起こった歴史があり、8世紀初めには「出雲に大洪水あり」と記録された文章も残っており、水害をはじめとする防災対策が必要となっている。

### (2) 現状と課題

現在の洪水対策は、抜本的対策を図るため、斐伊川・神戸川の上流（尾原ダム・志津見ダムの建設）、中流（斐伊川放水路の建設）、下流（大橋川の改修と宍道湖・中海の湖岸堤整備）が一体となった治水対策が進んでいる。

また、島根半島は泥質岩が広く分布しているため、地滑りが多発する地域である。そのため土砂災害ハザードマップが作成されている。さらに、昭和58年5月に秋田県沖で発生した日本海中部地震（マグニチュード7.7）や、平成5年7月の北海道南西沖地震（マグニチュード7.8）で発生した津波により、島根半島を中心として家屋の浸水や船舶・港湾施設に被害を受けており、防災訓練はもとより、公共施設の耐震化を進めている。

もう一つの特徴としては、本構想エリア内に島根原子力発電所が立地していることであり、関係自治体では住民の避難訓練及び広域避難計画の策定など、防災対策の実行性を高める取り組みを進めている。

### (3) 今後の計画手順

- ・松江市、出雲市が策定している地域防災計画の中にジオパークとの関わりを位置付け、専門分野での連携を図っていく。併せて、ガイドの養成時やジオツアーの際に、過去の災害とその対策も関連付けて学ぶこととする。
- ・原子力発電所に対する防災対策としては、ガイド養成時に、避難経路や避難手順を十分に学ぶものとする。また、ジオツアー参加者の安全を確保するガイド用の防災マニュアルを作成する。

### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
防災マニュアル作成	●														➔

## 5. 安全対策

### (1) 趣旨

ジオパークでは、野外での活動によって「大地」「生態系」「人」のつながりを体感する。その活動の場所は、海岸・海・山・川・岩場など多岐にわたり、様々なリスクが生じる可能性がある。そこで、訪問者が安心して楽しめるジオパークを目指すために、それぞれの場所でどのようなリスクがあるのかを把握し、リスク情報を的確に提供する必要がある。また、ジオツアーのガイド中に事故が起きた場合に、迅速に的確で安全な対応が極めて重要である。

### (2) 現状と課題

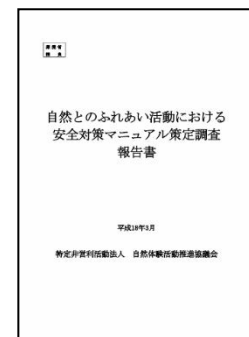
本構想エリアの一部は大山隠岐国立公園に指定されており、そのようなエリアでは定期的な管理と安全対策が行われている。しかし、その他一部のサイトでは安全対策が十分でないところがある。そこで、平成 28 年度から地質・地形サイト候補地の現地調査を行い、ジオツアーで通るルートの安全面を確認して、地質・地形サイトカードの基本情報に反映させることでエリア全体の状況把握を行っている。

### (3) 今後の計画手順

- ・地質・地形サイト候補地の現地調査を継続する。調査結果を踏まえ、崩落や落石等、ツアー時に危険が伴う可能性のある地点では、国・県と調整した上で安全対策看板を整備して注意を促し、必要に応じて立ち入り禁止区域を設定するなどの安全対策を講じていく。
- ・地質・地形サイトカードでは、地質・地形サイト候補地の状況を経年的に記載できるようにしており、常に最新の状況を反映する。地質・地形サイトカードはジオガイド用資料として利用し、ジオガイドが常に最新のリスク状況を把握できるようにする。地質・地形サイト候補地の中には、行くまでに体力が必要なサイトもあるため、地質・地形サイトごとに難易度を設け、訪問者に事前に情報提供できるようにする。
- ・地質・地形サイトカードでの状況把握に加えて、ジオガイドが安全にジオツアーを遂行できるように、ガイドマニュアルに安全対策に関する項目を明記することで、組織全体で安全管理体制を強化していく。
- ・ジオガイド養成講座においては、「リスクマネジメント」に関する講座を実施し、現場で想定されるリスク対策を行う。

#### 【安全管理の項目（案）】

- ・気象条件に応じたツアーの決行／中止の判断基準の明確化
- ・崩落や落石の可能性のある地点のリストアップと見える化
- ・遭遇する可能性のある危険生物とその対処法



参考)自然とのふれあい活動における安全対策マニュアル策定調査報告書(平成18年3月:特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会)

- ・ ツアー時の服装、状況に応じてヘルメットなどのガイド携行品
- ・ ツアー参加者の健康状態のチェックや配慮すべき事項の確認
- ・ 緊急時の連絡体制（近隣の病院も含む）の構築
- ・ 写真撮影ポイントや留意点の明示

（４）目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
現地調査と地質・地形サイトカードの整理	●—————→														
安全対策看板の整備				●			●			●			●		
安全対策マニュアルの作成				●————→											
リスクマネジメント講座の開設				●—————→											

## 6. ジオガイドの養成

本構想の魅力をより多くの人に、また、次世代に伝えるため、ガイド養成講座を継続的に開催する。

### (1) 趣旨

ジオパークの理念を理解し、本構想の魅力を観光客や地元住民に語ることができる質の高いガイドの養成を目指す。

### (2) 現状と課題

「はじめの一步コース」というタイトルの第1期初級ガイド講座を、2016年12月から2017年3月までの間に8回にわたって開催した。このコースの目的は、すでに観光や自然ガイドを行っている方を主な対象として、ジオパークの理念や本構想の概要を知り、現地ガイドの際に地質的な要素を付け加える形で案内が行えるような、人材の育成とした。そのため、コース終了後には修了証明書あるいは経過証明書を発行するが、今後計画されている上級編の認定講座を受講し、試験等で正式にジオガイドとして認定されることも理解してもらうこととした。初級編では本構想のストーリー、本構想エリアの地質・地形、生態系、歴史、神話、考古、及びガイドの基本と実践に関する座学に加え、本構想エリア内の2カ所でフィールドワークを行った。その結果、現役の観光ガイドを中心に35名が受講した。また、受講後には今後の課題を整理するため、受講者に対してアンケートを行った。

実施後のアンケート結果などに基づく、以下のような主な課題が浮き彫りになった。

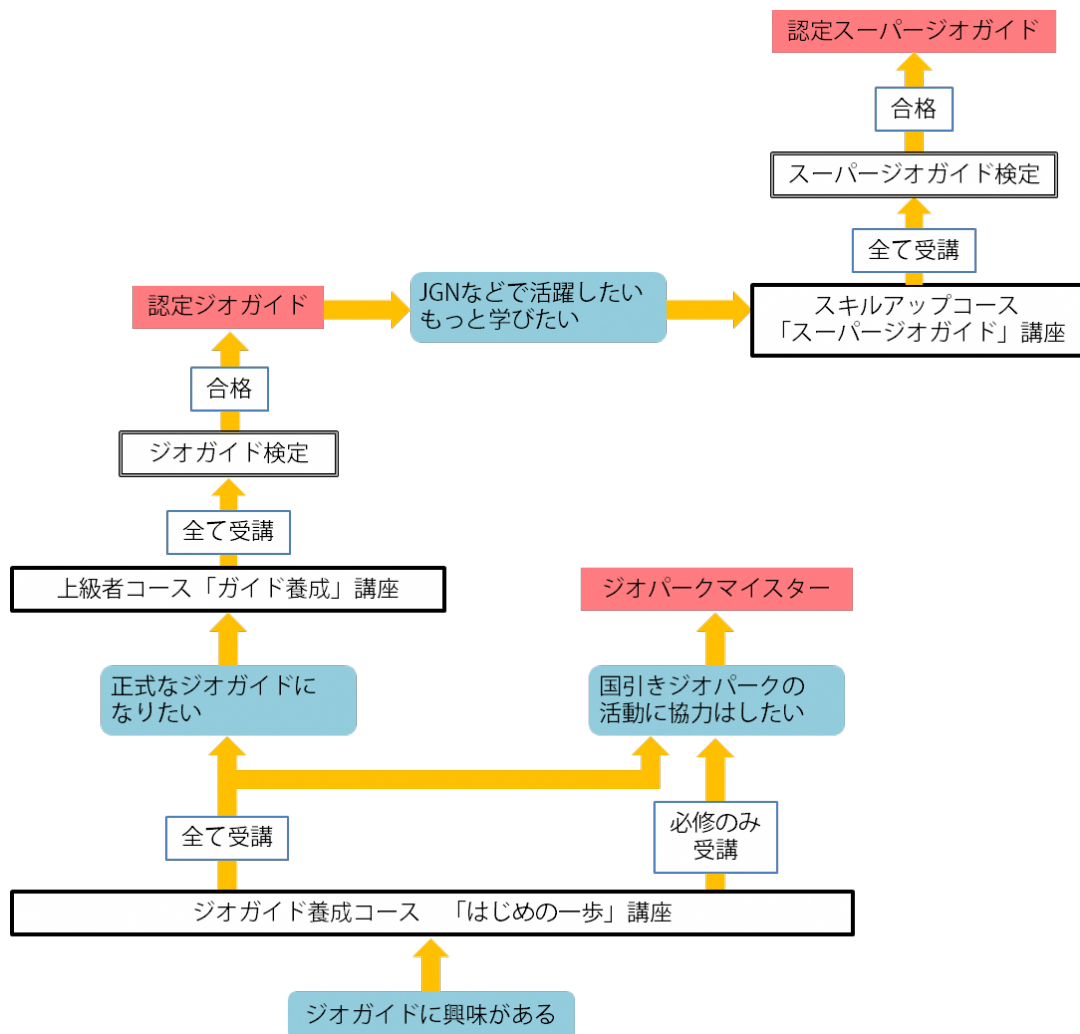
- ① 勤務などの関係から日程が合わず、8回の講座全てに参加できない。
- ② 開催場所に偏りがある。
- ③ 欠席した講座の資料を配布するのは良いが、資料だけでは理解できない。
- ④ 各ガイド養成講座のつながりが明瞭でない。
- ⑤ 自分がガイドを行っている場所でのフィールドワークを取り入れてほしい。

### (3) 今後の計画手順

- ・ジオガイドに興味がある、或いはなってみたい方を対象とした初級講座「はじめの一步」講座は引き続き開催する。アンケートの結果を元に、内容・回数を検討する。ジオガイド講座を組み込む講座、まつえ市民大学、島根大学ミュージアム講座などの受講者には、「はじめの一步」講座の受講免除などの制度を検討する。
- ・「はじめの一步」講座修了者を対象に、上級編である認定ガイド養成講座を開催する。上級編は、エリア・サブエリアごとの現地実習やジオガイドのテクニック、リスクマネジメントに関する実践的な内容とする。最終的に正式な認定試験制度を創設し、合格したものを「島根半島・宍道湖中海ジオパーク認定ジオガイド」とする。
- ・「島根半島・宍道湖中海ジオパークガイドの会」を設立し、ジオガイド養成講座の運営などを行う事務的体制を整備する。

- さらにスキルアップを目指す方、及び全国のジオパークで活躍できる人材を養成するためのスキルアップコース、認定スーパージオガイドの設置を検討し、確立する。
- 外国人対応のための国際交流員や地元の大学の留学生もジオガイドとして養成を行う。

【ガイド養成の概念図】



(4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
はじめの一步コース	●————→														
ガイド講座（初級上級講座）				●————→											
カリキュラム作成		●————→													
ガイド検定試験創設					●————→										
ガイドの組織化							●————→								
事務体制の整備										●————→					
スキルアップ講座の検討・確立							●————→								

※2018年度内に認定ガイドを10名にし、ジオツアーの受け入れを開始する。



## 7. 産業振興

### 1) ツアーコースの開発

#### (1) 趣旨

本構想エリアは、地質・地形と神話に描かれた物語とが混然一体となっている貴重な自然遺産ともいえるべき場所である。縁結びの出雲大社をはじめ多くのカルチャースポットが集まる魅力的な観光地であるが、ジオパークの視点から見つめ直すことで、その価値を再発見し、新たな魅力を掘り起こし、現在よりさらに多くの来訪者を呼び込み、地域経済に資する資源の開発、ツアーコースの開発などを行う。

#### (2) 現状と課題

この数年の本構想エリアの地質・地形サイト及び文化サイトに関連するツアーイベントは下記のように開催されてきた。

島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター

平成26～28年度 ジオツアー（探訪会）は15回で411名の参加者

島根半島四十二浦巡り再発見研究会

平成27～28年度 四十二浦ツアー 6回開催、毎回40名の定員はほぼ満席

また、神社ガールズ研究会（社☆ガール）は神社巡り、磐座巡りに加えて近年はジオツアーや風土記に記載のある歌垣の場所への船旅ツアーを行ってテレビでも紹介され注目を集めた。

課題としては、特徴的な地層や地形を有する場所は島根半島日本海沿岸部に多く見られ、船で行かないと見ることはできない（天候に左右される）場所が多いことや、大型バスが近くまで乗り入れられない場所や公共交通機関のない場所が多いことなどがある。

#### (3) 今後の計画手順

- ・これまでの活動実績データを分析し、どのような場所や地質地形的特徴について関心が高いかを洗い出して新規ツアーコースの開発につなげる。
- ・より多くの一般観光客を取り込むため、従来の古代歴史文化に関連する神社、遺跡などの文化サイトの要素に地質・地形的な要素を加えた絶景観光スポットの企画などを観光協会や観光業者と連携して作成する。
- ・陸路からアクセスできない場所については、既存の観光船（日御碕の観光船、加賀の潜戸観光船、美保関の観光船、中海及び宍道湖の遊覧船など）との連携を図り、海辺の地質・地形サイトを遊覧するコースの開発を検討していく。
- ・ジオガイドの養成において、小・中学生向けのジオガイドの養成も行い、観光客のみならず修学旅行を対象としたツアーコースの開発も行う。
- ・小泉八雲が加賀の潜戸、美保関、稲佐の浜などに小旅行していることから、インバウンド観光ツアーとして、ジオガイドが英語で案内する小泉八雲ツアーを開発する。

#### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
現状分析	●	→													
ジオツアー 企画			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
既存観光連携			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
観光船ツアー				●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
修学旅行 ツアー							●	→	→	→	→	→	→	→	→
外国語ツアー							●	→	→	→	→	→	→	→	→

※ジオツアーは年間3本を新たに開発する計画とする。

## 2) 本構想エリアで始まっている観光分野の新たな動きとの連携

### (1) 趣旨

本構想エリアには、魅力的な観光資源が数多くあり、JR西日本の豪華寝台列車の周遊や大きな連結汽水湖や日本海があることから空から遊覧する水陸両用飛行機の就航、大型客船の寄港など大きな動きがある。これらに本構想の魅力をPRし、協力連携して地域観光の発展に寄与する。

### (2) 現状と課題

JR西日本が2017年6月に運行開始する豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」では、山陰を周遊する3コースが予定されている。県外の民間事業者と検討を進めている「水陸両用飛行機」は2017年内に就航が実現すれば、中海を起点とした離発着を行う予定である。また、本構想エリアに隣接する境港市には大型クルーズ客船しており、2014年は14,110人、2015年は19,429人、2016年は39,589人と、年々増加傾向にある。

こうした動きに、ジオパークの要素は加えられておらず、積極的にアプローチする必要がある。

### (3) 今後の計画手順

- ・「トワイライトエクスプレス瑞風」の2年後の立ち寄り観光スポット見直しを見据えて、乗客に満足してもらえるジオサイトコースをJR西日本に企画提案する。
- ・「水陸両用飛行機」の就航に向けて、本構想エリアの上空からの見どころを選定し、上空遊覧コースを企画提案するほか、隠岐ユネスコ世界ジオパークや山陰海岸ジオパークなどの広域遊覧の可能性も検討する。
- ・大型クルーズ客船対策については、欧米人の目線で本構想エリアの見どころを記した小泉八雲をテーマにしたコースとして企画提案するとともに、外国語で案内できるガイドを育成する。

#### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
瑞風企画提案				●	→										
水陸両用飛行機企画提案		●	→												
大型クルーズ船提案				●	→										

### 3) 宿泊を促す仕組みづくり

#### (1) 趣旨

本構想エリアにゆっくりと滞在することで、ジオサイトをはじめとする地域の魅力を満喫して、再度訪れたいと思ってもらう仕組みをつくる。また、観光客に長期滞在を促すことで観光消費額を向上させる。

#### (2) 現状と課題

本構想エリアには年間約65万人が宿泊する玉造温泉や松江しんじ湖温泉などの優れた宿泊施設がある。しかし、2泊以上の宿泊数は伸び悩んでいる。

また、誘客拡大のためには、情報発信の方法も重要な視点となる。旅行地を決定する要因の約25%がインターネットの時代となっており、インターネットを使った情報発信には観光業者も積極的に取り組んでいる。古代出雲歴史博物館なども8年前から、館内の自館所蔵の展示資料の撮影は許可しており、来館者の情報発信を活用している。地質・地形の魅力伝える情報発信は乏しい状況であり、新たな取り組みが求められる。

#### (3) 今後の計画手順

- ・長期間滞在しても飽きない体験メニューを多数準備していく必要がある。地質・地形サイトの多くは沿岸部に所在することから、定置網体験、ダイビング、シーカヤックなど、沿岸部特有の体験型観光メニューを提供できる団体との連携を図りサービスメニューの開発を行う。
- ・全国的な問題でもある空き家対策と併せて、古民家などを改修して、ゲストハウスとして提供している人々と連携を強化する。加えて、島根半島には高価な十六島海苔やワカメなどの特産品がある。また、花粉症に効果があるといわれるアカモクや天草から作るトコロテンなど海の特産品を本構想エリアの魅力として伝え、夜の食事を工夫して宿泊を促す。
- ・タクシー会社を対象にジオパークの魅力を伝えるための研修などを行う（観光タクシー研究会との連携）。
- ・本構想エリアをより効率的に情報発信する工夫としては、地質・地形サイトや文化サイトの美しい画像を提供し、そこで自撮り写真を撮ると、楽しく魅力的な写真が撮れることをアピールして誘客を図るとともに情報発信を促す。

※観光部署等と連携して取り組むこととする。

#### (4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
体験型観光・特産品メニュー調査・研究・開発			●	→											
観光タクシーの研修会				●	→										

#### 4) 地域が継続的に稼げる枠組みの構築

##### (1) 趣旨

地域資源を活かして、地域が稼ぐ力をつけるための一つの切り口としてジオパーク活動を推進する。

##### (2) 現状と課題

地域は少子高齢化により人口減少が進み活力が失われつつある。地域に稼ぐ力がなければ人口は益々減少するという悪循環となってしまう。島根半島や中山間地において、地域の特色ある産品を生産、製造する人々の事業規模が小さいため事業拡大の糸口を得難い。地域ごとにある産業の共通部分の連携や外部のアイデアや人脈の活用が必要となっている。

##### (3) 今後の計画手順

- ・ 地域の特産品生産事業者が若い女性と連携して商品開発や情報発信を行い、女性雑誌等に売り込んでいくような活動が行えるよう、地域産業と若い女性のマッチングを行う仕組みを検討する。
- ・ 共通の産品、例えば海藻漁の共通な仕事に従事する人たちのマッチング及び連携を促す仕組みを検討する。
- ・ 国内外からの観光客の拡大に対応するため、地域の特産品生産事業者からの購入・発送等において手軽なスマホ決済可能な手段導入を検討する。
- ・ 直接購入した以後も居住地から継続的購入に繋がる通販の仕組みづくりを、地域の郵便局等も活用して構築することを検討する。
- ・ QRコードで地質・地形サイトの風景を組み込んだ電子朱印状などを購入できるソフトなど、ジオサイトを活かした商品の開発を地元企業と行う。

※各事業は、それぞれの担当部署と連携して取り組むこととする。

(4) 目標達成に向けたスケジュール

年度	2017			2018			2019			2020			2021		
区分	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
マッチング							●	→	→	→	→	→	→	→	→
スマホ決済							●	→	→	→	→	→	→	→	→
通販の仕組み構築							●	→	→	→	→	→	→	→	→
ジオサイトを活かした商品開発							●	→	→	→	→	→	→	→	→

### 第3章 ジオパーク活動をベースにした人づくり・まちづくり

#### 1) 人材育成・人材還流および産業の振興・交流人口の拡大

本構想エリアの地質・地形を活用し、大地の成り立ちや育まれてきた歴史文化を深く学び、見つめ直すことで、ふるさとへの誇りと愛着を高め、人材育成・人材還流を促進する。

また、定置網漁やダイビング、シーカヤックなどの体験型メニューのほか、小泉八雲の足跡を辿る紀行ツアーや神話をキーワードにしたインバウンド観光、水陸両用飛行機を活用した空からの島根半島巡り、四十二浦巡りやサイクリング、伝統行事・食文化・新鮮な地元産品を揃えた朝どれ市などの地域資源を守り育てながら価値を見出し、フル活用して産業の振興・交流人口の拡大を図る。

#### 2) エリアやジャンルを超えた一体的かつ広域的なプロモーション強化

本構想エリアには、大山隠岐国立公園、ラムサール条約登録湿地の中海・宍道湖、名勝・天然記念物の立久恵峡や加賀の潜戸、国宝に指定されている出雲大社、松江城、神魂神社をはじめ、様々な地域資源がある。しかしながら、制度・分野や指定エリアの違いから一体的な戦略が描きにくい状況であった。

国宝、国立公園、ラムサール条約登録湿地、名勝・天然記念物をはじめとした様々な宝を結び付け、価値を高め、丸ごと語ることができるのはジオパークの取り組みだけであり、エリアやジャンルを超えた一体的かつ広域的な視点からプロモーションを強化する。